



## ACC-18（2023年2月）向けアングリカン先住民ネットワーク（AIN）報告

Tena koutou e nga mema o Te Haahi Mihinare 諮問委員会.

これは、2020年から2022年までのAINの活動の報告書である。

1

### 感謝：

2022年12月、**クリス・ハーパー**主教はカナダ聖公会の新たな同国先住民大主教に選出され、セイクリッド・サークルの長老を務めた。

2022年11月、AINは**ジャック・パーマー-ホワイト**氏にこの4年間の貢献について感謝する。

2022年7月、**レイチェル・テバー-ハミルトン**師は米国聖公会(TEC)の副会長に選出された(下院において)。

2021年の新年褒章で、**テ・キトヒ・ピカアフ**主教は、ニュージーランドのアオテアロアの聖公会とマオリへの奉仕のためのニュージーランド・メリット勲位の役員に任命された。

2020年11月、**ローズ・エル**博士は、アナスタシア・パラシェ首相より、2021年クインズランド・シニア・オーストラリアン・オブ・ザ・イヤーを授与された。

2020年~2022年、新型コロナウイルスの衝撃的な時期に亡くなったすべての人々に感謝する。

2019~2022年、予定の先住民聖公会の基礎的文書の作成に対して、**マーク・マクドナルド**大主教と先住民の主教および各コミュニティの貢献に感謝する。

---

<sup>1</sup>AINはアングリカン・コミュニオンの公認ネットワークの一つである。現在は、カナダ、アメリカ、ハワイ、オーストラリア、アオテアロア/ニュージーランドの先住民アングリカンを代表する。

2019年9月、ハワイで最後に開催された AIN 会議の主催者に感謝する。2021年 AIN 会議は新型コロナウイルスのため中止された。次回 AIN 会議は、2023年7月にオーストラリアで開催される予定。



### 2022 Lambeth Conference では、先住民の声を聞く場がいくらか設けられた:

- ランベス会議には9人の代表と AIN 議長のキト主教が出席した。
- ポール・テスター氏（ラテンアメリカ CMS マネージャー）とアルゼンチンの先住民主教との AIN ネットワーキング・ミーティング：+Mateo, +Cristansos, & ++Nick Drayson.（+マテオ、+クリスタンソス、および++ニック・ドレイソン）。
- アオテアロアおよびポリネシア+アマゾニアを舞台とする「地球危機に関する予言的な先住民の声」映画がケント大学で上映された。
- キト司教が「環境:5番目の宣教の指標とともに暮らす」について講演した。
- キト主教が「和解」全体セッションで主要講演者を務める。
- カンタベリー大聖堂で開催された Lambeth Conference 聖餐礼拝 - ジャシントンティア・マーフィー師がジャスティン大主教を祝福し、マオリ語で開会の祈りを読む。
- AIN 代表者はアングリカン・コミュニオン・オフィス（ACO）のジャック・パーマー・ホワイト氏と再会昼食会を共にする。
- 「先住民予言の声」ウェビナー・ワーキンググループ夕食会が、マーク・アンドラス主教（TEC-カリフォルニア）と妻シェイラ、および ACEN・AA ネットワークメンバーと共にもたれた。
- 10人の AIN 代表団は Lambeth で主教にセミナーを行う。
- AIN セミナーおよび先住民神学リソースを Lambeth で共有。
- ナイハナ師、テ・カレレ師およびワイオラ師が AIN リソースセンタースタンドを支援。

- AIN は Lambeth Palace で開催された環境と「持続可能な開発ロンドンデー」イベントに出席 - ジャシンティア師が植樹の際に祈りを捧げる。
- AIN メンバーは、アオテアロア/ニュージーランド・ユーカーリストの駐車場で聖餐を受ける。
- AIN と先住民の主教らがジャスティン・ウェルビー大主教と短時間会う。

#### AIN のメンバーによるいくつかの重要な仕事:

1. 2020 年から 2021 年の間、AIN は Zoom を通じて定期的に会合を行ったが、新型コロナウイルスのため、オーストラリアのブリスベンで予定されていた 2021AIN 会議は開催されなかった。計画されていた AIN の国際的業務の多くは、新型コロナウイルスのために実施することができなかった。
2. 2019 年に総会議で可決された教会法 XXII の修正によって可能になった、自己決定するカナダ先住民聖公会の名称である「セイクリッド・サークル」は、++Mark MacDonald（++マーク・マクドナルド）が身を引いて以来ゆっくりと進んでいる。
3. 2022 年 7 月に開催された TEC 総会で教会の評議会は、19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけての先住民寄宿（宿泊）学校への TEC の関与を調査する委員会を求める決議を可決した。TEC 総会では、すべての教会の集会で先住民の土地を認めることも求めた。
4. TEC 冬季集会「2 つの伝統をつなぐ鎖」が、1 月 15 日から 16 日にバーチャルで開催された。総裁主教と下院議長が参加し、オナイダ族は TEC との協力 200 周年を記念して表彰され、ビデオ「教会と世界に語りかける原住民の声」が初公開された。
5. TEC の先住民聖職者は、ニューヨークで開催された国連「先住民族聖職者に関する常設フォーラム」に参加した先住民族チームを支援した。先住民言語の重要性と、米国における先住民の行方不明・殺害の問題についての声明が起草され、事務局に提出された。
6. シカゴの先住民聖職者およびベクスリー・シーベリー神学校の米国聖公会オフィスは、教会の評議会によって承認された公式パートナーシップを設け、平信徒および聖職者両者の先住民神学学生のための文化的配慮が必要とする手頃な料金の神学教育プログラムを立ち上げ、先住民コミュニティ内の会衆リーダーシップを支援、用意した。

7. 2022年7月、AINは先住民族と宗教または信仰の自由の権利に関する報告書を特別報告者に提出した。
8. AINの議長およびTe Runanga o Whakawhanaunga i Nga Haahi o Aotearoa (マオリ全教会会議)の議長が、ドイツで開催されたWCC会議に出席する。
9. 2020年11月に開催された降臨節ウェビナー「地球危機に関する予言的な先住民の声」<sup>2</sup>に関するAIN、ACENおよびAAネットワーク協力以降、次のような作業が行われた。
  - a. AIN/ACEN/AAワーキンググループが、ジャスティン・ウェルビー大主教にアングリカン先住民への回勅の作成を提案した。
  - b. AIN/ACEN/AAワーキンググループは、4つの先住民ウェビナーおよびグループの作業に対する称賛をジャスティン・ウェルビー大主教から受けた。
  - c. ウェビナーやその他ウェビナーからのリソースは、2021年11月にスコットランドのグラスゴーで開催されたCOP26気候変動会議、および2022年Lambeth Conferenceで活用された。
  - d. AINは、エコロジカル神学と倫理学に関するアングリカン・チャーチのリソースの開発について、TEACと協力して作業を続けている。
  - e. テ・キトヒ・ピカアフ主教は、アングリカン・コミュニオンCOP-26作業部会の代表として招かれた。
  - f. 2021年11月にグラスゴーで開催されたCOP26では、AIN北米代表(アラスカ州フェアバンクスからプリンセス・ダズライ・ジョンソン(グウィチン))が対面でのACC代表の一人として参加し、COP26ではジャシンティア・マーフィー師がZoomを通じて参加した。
  - g. ローズ・エル博士は、11月にエジプトで開催されたCOP27にAIN代表として出席した。
  - h. ポール・レイノルズ博士(AIN事務局長)は、2022年6月にドイツのボンで開催された国連気候変動枠組条約締約国会議(UNFCCC)に出席し参加するためのACC登録代表の4人の中の一人に選ばれた。先住

---

<sup>2</sup>アオテアロア/NZ およびポリネシア、アマゾンおよびアフリカ・ウェビナーは次のグリーン・アングリカンウェブサイトに掲載されている：

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLkTM3laIbXdBRulk3MV3BVIOL7\\_kP\\_rFh](https://www.youtube.com/playlist?list=PLkTM3laIbXdBRulk3MV3BVIOL7_kP_rFh)

民ネットワークを代表するこの立場で ACC が国際会議に参加した最初となった。

- i. 異教徒間連絡委員会 (ILC) および世界教会協議会(スウェーデン)共同議長のヘンリック・グレープ氏およびアオテアロアに拠点を置く ILC メンバーで UNFCCC 宗教アドバイザーの Ms サーワット・タスニーム氏とともに、国連気候変動枠組条約の ILC 会合に参加する。
- j. AIN の活動を支援するニュージーランド・アオテアロア・オークランドにあるセント・ジョンズ神学大学は、研究者のネットワークを通じて先住民神学のための場を積極的に提唱して設け、研究ウェブサイト (Te Piri Poho)<sup>3</sup>を立ち上げ、2022 年 9 月にジャーナル (アオテアロア・オセアニア・アングリカン神学ジャーナル) を創刊した。

**今後の活動** - AIN は、次のようなさまざまな分野で活動する予定である。

- 議長が世界各地の先住民主教および代表者と会合を持つ。
- 国連および ACO に代表を参加させる。
- 必要に応じて ACEN および AA とプロジェクト協力を継続する。
- 先住民ネットワーク議長は、カナダの先住民大主教および主教と連帯し、次回セイクリッド・サークルに出席することで支援する。
- 「先住民の神学と声」のための場を国際的および聖公会内で積極的に提唱して設ける。
- 先住民の信仰と神学的な声が歓迎されるジャーナルへのアクセスを提供することにより、先住民の布教団、奨学金、および大学院を支援する。
- 2023 年 7 月にオーストラリアで開催される次回 AIN 会議に向けて会合を持つ。

## 推奨

1. 先住民の神学者を一致・信仰・制度に関するインター・アングリカン常任委員会(IASCUFO)に任命することを推奨する。
2. AIN 議長を ACC に任命することを推奨する。
3. 翻訳者/翻訳などの作業、AIN 議長が世界中の先住民の主教や代表者と会うための旅行、および国連で先住民問題を提起する作業のために資金供給できるよう AIN に資金を拠出することを推奨する。これにより、現在実現できて

---

<sup>3</sup>Te Piri Poho のウェブサイト : <https://www.stjohnscollege.ac.nz/about-te-piri-poho>

いない AIN の重要な役割であるアングリカン・コミュニオンの先住民の声をとりまとめ、より良く表現することが可能になる。

4. アングリカン・チャーチが、「先住民の権利に関する国連宣言（UNDRIP）」（宣教の5つの指標の採択と同様）を支持することを推奨する。

- a. 世界中のアングリカン・コミュニオンの大主教による「先住民の権利に関する国連宣言」の承認の重要性は、ジャスティン・ウェルビー大主教とフランシスコ教皇が 2022 年にカナダの先住民に行った謝罪と同様に、強力な象徴的ジェスチャーである。
- b. アングリカン・チャーチは次に、象徴的ジェスチャーから、先住民の声や知識、知恵を積極的に提唱する行動へと移行する必要がある。上記最初の3つの推奨は、アングリカン・コミュニオンにおける先住民の場所と権利および声を認めるものである。
- c. 植民地化により先住民に起こったことは(歴史のおよび現代的な意味で)「ジェノサイド」であることを認めること - フランシスコ教皇は 2022 年 7 月のカナダ訪問でこの言葉を使い、++ Mark MacDonald (++)マーク・マクドナルド) は 2021 年、ある寄宿学校の記事でこの言葉を使った。

Kia tau te Rangimarie o te Atua ki a koutou.

神のご加護がありますように、そして私たちの主イエス・キリストの平安があなた方と共にありますように。

テ・タイ・トケラウ主教・AIN 議長のテ・キトヒ・ピカアフ尊師 (ニュージーランド・メリット勲位オフィサー：ONZM)